

史料室だより

題字デザイン 高岸 昇



1967.10.16 「狐塚」 和泉流狂言

恵泉女学園の芸術教育

学園の創立者・河井道先生が「今こそ、キリスト教主義の学校を始めるときだ」とはっきり決心されとき、規定のカリキュラムとともに「聖書」、「国際」、「園芸」という教科を特設されたことはよく知られています。さらにその上に日常的教育活動の中に「芸術教育」の要素がちりばめられていました。

本物に触れる機会

開校まもなくの頃から美術展見学、音楽や映画の鑑賞などが盛んに取り入れられていたことが資料に記録されています。また、開校当時は「恵泉女学園」を世に知らせ、支援を得るための「恵泉の集い」を開催して映画、音楽などを鑑賞する機会がありました。その後も校舎の建設募金のための芸術鑑賞の行事が企画されてきました。出演者たちは一流の方々、あるいは恵泉で演奏された後に有名になられた方も多くありました。例えば、1953年に石井漠バレエ団の公演で踊られた幼い松島トモ子さん、1957年に東京芸大の卒業間近の学生による音楽会で歌われた五十嵐喜芳さんなどは記憶に残っています。学園が、出演者選びに当たって、生徒たちに「本物に触れる」機会を与えることを配慮していたのだと思います。

生徒に与えられた賜物を大切に

芸術鑑賞の機会に一流の演奏家を招くだけでなく、学園は、芸術的才能に恵まれた生徒を育てることに配慮していました。ピアノが弾ける生徒には順番に朝の礼拝の讃美歌伴奏の機会が与えられていました。また、記念式典で特別に演奏をする生徒もいました。例えば、1954年にはヴァイオリン黒沼ユリ子さん、マリンバ安倍圭子さんの二人による記念演奏会など。高校卒業後、音楽を学ぶ卒業生も多く、今、毎年同窓会主催で恵泉デーに開催されるチャリティコンサートの出演者には声楽、ピアノ、ヴァイオリン、チェロ、パイプオルガン…と多種の演奏者が多数協力しています。また、作家として活躍する卒業生もいます。柚木

麻子（高52）さんは、今年、山本周五郎賞を受賞され、直木賞に過去3回ノミネートされるなど活躍中です。

学園生活の中での素地作り

幅広い芸術分野への興味、関心、意欲の芽ばえ、成長は学園生活の様々な行事がきっかけだったこともあるように思います。例えば、ある時期毎年行われていた「演劇コンクール」。中学校、高等学校がそれぞれ縦割りのグループを作り、6組が競演する行事でした。上級生のリーダーシップのもと、演目選び、脚色、配役、練習等々すべての過程を生徒が仕切りました。上級生が選ぶ演目はシェークスピアの作品から童話までバラエティに富んでいました。この活動は、学年を越えて生徒が一つの劇を作り上げる協力の経験のなかで演劇に対する感覚を育ててくれたと思います。このコンクールの出演者からは宝塚歌劇学校に進んだ人も複数いました。コンクールが実施されていない最近でも、花組のトップスター花乃まりあさん他卒業生が活躍中です。合唱コンクールは現在も実施されていて、毎年、開催時期になると校舎のあちこちから美しい女性コーラスのハーモニーが響いています。

恵泉芸術教育の原点

こうした「恵泉の芸術教育」の原点は河井先生のスミス女学校時代、留学時代でのご経験にあったと思います。『わたしのランタン』には、〈金曜日の夜の遊びの時間〉、〈クリスマスの朝の挨拶競争〉、〈アイヴィハウスでのフランス語劇〉等、あちこちに先生のユーモアのセンス、芸術的感覚を培う元となったと思われる場面の記述を見ることができます。河井先生は、ご自分が身に付けられたことをすべて惜しみなく恵泉に注ぎ込まれ、生徒たちにセンスを養う機会を作られました。生徒たちは、自らの芸術的な能力に気づいて、磨いていく環境が与えられ、また、ここまで学園の「芸術教育」が継承されてきたのだと思います。（学園長 松下俱子）

中学・高等学校における芸術鑑賞プログラム

1. 創立期からの芸術鑑賞プログラム

「史料室だより」19号、20号では、「多様な講演—恵泉教育・ひとつの特色」をテーマに、講演会、特別礼拝を年表にまとめた。今回は、同様に生徒に大きな感動を与えた芸術鑑賞プログラムを年代順にまとめた。年表は、安藤和子史料室員が、「恵泉」の行事報告や記事等、史料室保管の資料を基に作成。宇野典子、佐藤恵子、川上律子、松居正子、風間文子、深谷佐紀子等、行事記録を寄贈し整理した旧教職員の労苦があって、年表作成が可能となった。

恵泉創立期及びその後の教員の中に、美術の本郷新、明田川孝、音楽の津川圭一、奥田耕天、文学の宮崎燁子（柳原白蓮）などの名がみられる。教師陣が芸術鑑賞の道を開き、信和会主催初の演奏会が1934年6月「津川先生のご親切で…」（「恵泉」19号）開か



1936.11.18 鈴木カルテット

れている。1936年、37年に新制作協会展見学が実施されているが、本郷新は新制作協会彫刻部立ち上げの中心人物だった。

音楽鑑賞や観劇が身近でなかった時代に、一流の芸術に触れる機会が恵泉では豊富に用意されていた。1930年代、40年代に日比谷公会堂で「恵泉の集い」の名のもと、映画、舞踊、演奏等のプログラムが生まれ、収益は校舎増築や教育活動に用いられた。募金目的の会、同窓会、維持会・恵泉会主催のプログラムは年表から割愛したが、世田谷区民会館における恵泉会主催「恵泉女学園音楽の夕べ」（1964年）でのダークダックスの歌声を卒業生は記憶している。

五十嵐喜芳、藤山圭子（高2）等の「音楽会」（1957年）や結城座「糸あやつり」（1968年）等は、世田谷キャンパスの講堂で行われた。（フェロシップホール完成1970年）

中学職員会議や高校職員会議で、対象に適したプログラムを検討していることが職員会議記録から読み取れる。

能「羽衣」を鑑賞する前に、「現代と能楽」と題した三上慶子（普12）の講演を聴き、文楽「絵本太閤記」鑑賞前に映画「文楽」を見ている。1967年の「狂言鑑賞会」の感想を当時中学2年の杉浦朱美（現酒井、高24）が「恵泉」245号に、「最後の質問会では疑問に思ったことを演じて下さった方自身に質問できたことは私達にとって有益だった」と記述している。芸術鑑賞において事前・事後の丁寧な指導があることも恵泉女学園の芸術教育の特色である。

英文科学生と高校生を対象に、ロンドン・シェークスピア・グループが演じた英語劇「ロミオとジュリエット」「ヴェニスの商人」「十二夜」「マクベス」「ハムレット」は作品を事前学習し、小田島雄志、斎藤和明等が解説。1987年英文科の多摩キャンパス移転後、高校生は有志参加となった。

スロヴァキア少年少女、ドレスデン聖十字架、ロシア少年少女、ブラハ少年少女合唱団等来日時に恵泉女学園でプロ

グラムが組まれたが、卒業生の紹介で実現したのものもある。コンサート後の交流会で団員と交わり、文通を続け、世界史専攻やロシア語専攻に繋がったと語る卒業生もいる。

「棒しばり」「柿山伏」（和泉流野村狂言の会）の舞台設営を生徒達は心を躍らせて見つめた。1967年から国立劇場を会場に中高生を対象とした歌舞伎鑑賞教室がはじまり、国立能楽堂完成後、能楽教室も実施されるようになった。以降毎年恵泉は、3年、5年が学年単位で参加している。

秋田稔学園長時代になると校務分掌が組織化され、教科外学習部が、芸術鑑賞、国際交流、平和学習等を担当している。（松井弘子）

2. 中高一貫教育開始後の芸術鑑賞

2000年度中高6年一貫教育開始後、芸術教育も中高合同で行うこととなった。様々な行事の精査の中で、芸術鑑賞は「校内（フェロシップホール）で2月に行う」ことを基本に、収容人数が1100名弱のホールで行うため、対象学年は1年から5年とした。資金面では毎年恵泉会から援助して頂いている。

芸術鑑賞の大きな目的は「生徒の感性を育てる」こと。6年一貫制の中で5年間をかけて様々なジャンルの本物の芸術に触れる機会を通し、生徒一人一人の感性を育て、内在する力を引き出すものとするために、以下の分野のローテーションを組むこととした。

（1）日本の伝統的民俗芸能（2）世界の国々の民族音楽・芸能（3）楽器による名曲演奏会、内外の優れた合唱団等のコンサート（4）演劇（5）内外で評価の高い優れた総合的芸術（バレエ・オーケストラなど）の鑑賞。

校内実施の利点を最大限に生かし、最近では演劇舞台のバックステージツアーや公演後のパラシの手伝い、伝統楽器の演奏体験、オーケストラとのコラボ演奏等を企画、生徒は公演者と触れ合う機会を満喫している。聴衆としての恵泉生の評判は、公演者にも幹旋団体にも非常に高い。生徒達はジャンルを問わず、集中して観、聴き、泣き、笑い、そして大喝采で出演者を讃える。出演者から「一生懸命観てくれて嬉しい」「反応が素晴らしい」とお褒めの言葉を



2011.11.22 青年劇場

頂く。その一例は2005年のスカラ室内管弦楽団の公演。2003年にフェロシップホールで有志生徒・保護者向けにコンサート開催。その際の生徒・保護者との温かい交流を楽団のメンバーが覚えていて下さり、2005年再来日の折「是非また恵泉で演奏したい」とご指名頂き、演奏者と聴衆が一体となる熱気の溢れる演奏会となった。

2003年度の「白鳥の湖」でも東京文化会館を貸し切り、多くの保護者に参加頂いた。保護者の芸術意識の高さも、芸術鑑賞会を支える大きな柱の一つである。今後も生徒が本物の芸術に触れる機会を大切に、演目を選んでいきたい。

（教科外学習部 服部伸江）

中学・高等学校 芸術鑑賞プログラム(1学年のみ・有志参加は除く)

創立の頃～2014年度

年月日		内容	備考
1929.6.28	普通部	見学 東京帝室博物館展	
1932.11	普通部	見学 東京帝室博物館展	
1934.6.23	音楽	音楽会(声楽) 船越 狩野	信和会主催
1936.6.10	音楽	ヴァイオリン演奏会 田實和子 伴奏 太田節子	
1936.11.18	音楽	鈴木カルテット演奏会	信和会(普通部・高等部)の時間
1936.11	見学	新制作協会展	
1938.6.4	見学	戦争美術展覧会 上野の美術館	
1938.6.18	音楽	鈴木カルテット及び豊田耕児演奏会	信和会の時間
1941.6.4	映画	「キング・オブ・キングス」	
1942.10.14	高等部	見学 ダ・ヴィンチ展 上野池之端産業会館	
1943.12.4	普・高	音楽 倉田高セロ演奏会	信和報告団主催
1950.1.27	高校	見学 近代フランス絵画複製画展	特活
1955.2.5	中・高	音楽 ヴァイオリンリサイタル M・フリードマン 伴奏 C・ブルクハート	
1957.2.19	高校	音楽 音楽会(声楽) 五十嵐喜芳 宮原卓也 藤山圭子(高2)他	信和会
1958.9.10	高校	音楽 ミセス・ウェルチ独唱会	特活
1966.5.13	中学	歌舞伎 「鬼一法眼三略巻菊畑」 坂東三津五郎 田中伝左衛門他 歌舞伎座	芸術鑑賞
1966.10.1	中学	音楽 シンシナティ交響楽団演奏会 産経ホール	校外授業
1967.10.16	中学	狂言 「狐塚」「附子」 和泉流	芸術週間 10/16-10/20
1968.5.7	中学	見学 レンブラント名作展 国立東京博物館	行事週間 5/6-5/11
1968.5.18	高校	演劇 「オリバー」	信和会文化部主催
1968.10.7	中学	糸あやつり 「三番叟」「弥次喜多道中記」「杜子春」「寿獅子」 結城座	芸術週間 10/7-10/12
1969.10.13	中学	能 「羽衣」 観世流 高橋静夫他	芸術週間 10/9-10/18
1970.10.14	中学	狂言 「棒しばり」「柿山伏」 和泉流	芸術週間 10/9-10/17
1971.10.11	中学	糸あやつり 「杜子春」「弥次喜多道中記」 結城座	芸術週間 10/8-10/16
1972.6.8	中学	演劇 「カチカチ山」「楽しい旅路」 早野演劇研究所	行事週間 6/1-6/10
1972.10.20	中学	雅楽 「越天楽」「白浜」他 日本雅楽会	行事週間 10/10-10/21
1973.6.2	中学	演劇 「にんじん」 劇団・劇作座	行事週間 6/2-6/8
1973.10.12	中学	狂言 「附子」「瓜盗人」 和泉流	行事週間 10/12-10/19
1973.11.24	中学	映画 「黒い牡牛」	特活 恵泉会文化部協賛
1974.5.2	中学	文楽 「絵本太閤記」 国立劇場	見学 芸術鑑賞
1974.6	高校	演劇 「黄金の国」 劇団雲	学生の日
1974.10.26	中学	バレエ 「白鳥の湖」「くるみ割り人形」より 山路バレエ団	特活 芸術鑑賞
1975.1.17	高校	映画 「エデンの東」	信和会新年会
1975.5.23	中学	糸あやつり 「三番叟」「弥次喜多道中記」「杜子春」「寿獅子」 結城座	芸術鑑賞
1976.2.26	中学	演劇 「泥かぶら」 新制作座	特活
1976.5.28	中学	音楽 「日本の旋律」他 日本音楽集団	特活 音楽鑑賞
1976.11.19	中学	狂言 「棒しばり」「柿山伏」 和泉流	芸術鑑賞
1977.1.22	高校	映画 「サンダカン八番娼館」	信和会
1977.11.10	高・英	演劇 「ロミオとジュリエット」 ロンドン・シェークスピア・グループ	特活
1978.3.10	中学	映画 「野生のエルザ」	信和会送別会
1978.5.19	中学	糸あやつり 「三番叟」「弥次喜多道中記」「杜子春」「八百屋お七」他 結城座	特活 芸術鑑賞
1978.11.17	中学	音楽 マリンバ演奏会 安倍圭子(高8)	特活
1979.3.12	中学	映画 「平和の谷」	信和会送別会
1979.11.20	中学	狂言 「萩大名」「しびり」 和泉流	特活
1980.2.29	中学	演劇 「ブンナよ木からおいてこい」 劇団青年座	特活 芸術鑑賞
1980.9.4	中・高	音楽 国立スロヴァキア少年少女合唱団演奏会	芸術鑑賞
1980.11.6	英・高	演劇 「ヴェニスの人」 ロンドン・シェークスピア・グループ	特活
1980.11.13	中学	落語 古典落語鑑賞会 「千早振る」 三遊亭円楽	特活 芸術鑑賞
1981.11.25	中学	糸あやつり 「三番叟」「弥次喜多道中記」「杜子春」「八百屋お七」他 結城座	芸術鑑賞
1982.10.13	中学	演劇 「ある馬の物語」 劇団青年座	特活 芸術鑑賞
1982.11.19	高・英	演劇 「十二夜」 ロンドン・シェークスピア・グループ	特活
1983.1.28	中学	音楽 マリンバ演奏会 安倍圭子(高8)	特活
1983.6.10	中学	歌舞伎 「壱坂霊験記」「身代座禪」 尾上菊五郎 市川海老蔵他 国立劇場	特活
1984.4.21	高校	音楽 ヴァイオリン独奏会 黒沼ユリ子(中9)	特活
1984.11.20	高・英	演劇 「マクベス」 ロンドン・シェークスピア・グループ	特活
1985.11.15	中学	演劇 「アンネの日記」 劇団民芸 世田谷区民会館	特活 芸術鑑賞

1985.11.22	高・英	音楽	チェロ演奏会 セシリア・バルチック 伴奏 レイナルド・ライエス	
1986.6.13	中学	朗読	「詩を楽しむ午後ーヴィオラ・ダ・ガンバの音色と共にー」 朗読：篠原大作・花形恵子 神戸美樹とヴィオラ・ダ・ガンバ合奏団	特活 芸術鑑賞
1986.11.14	中学	話芸	「泥の河」 マルセ太郎	特活 芸術鑑賞
1986.11.20	高・英	演劇	「ハムレット」 ロンドン・シェークスピア・グループ	特活
1987.1.31	高校	映画	「泥の河」 講演 小栗康平監督	信和会主催
1987.6.13	中学	歌舞伎	「俊寛」 市川團十郎 坂東彦三郎他 国立劇場	芸術鑑賞
1987.11.20	中学	オペラ	「セロ弾きのゴーシュ」 オペラシアターこんにゃく座	特活 芸術鑑賞
1988.2.6	高校	民族芸能	ワヤン・クリ (インドネシア影絵芝居)	特活
1988.6.10	中学	狂言	「柿山伏」「棒しばり」 和泉流	特活 芸術鑑賞
1988.11.11	中・高	音楽	ドレスデン十字架合唱団コンサート	芸術鑑賞
1988.12.9	中学	歌舞伎	「五重塔」 前進座 青山劇場	特活 芸術鑑賞
1989.6.9	中学	パントマイム	「機械の夢」「街角にて」「ひま」他 里見のぞみ(高校27)	特活
1989.10.17	中学	文楽	「釣女」 豊竹呂太夫他	特活 芸術鑑賞
1990.6.8	中学	音楽	おかだパーカッショングループ演奏会	特活 芸術鑑賞
1990.12.3	中学	音楽	ジャズ・フォー・キッズ	特活 芸術鑑賞
1991.6.7	中学	狂言	「梟山伏」「佐渡狐」 和泉流	特活 芸術鑑賞
1991.7.6	中学	ダンス	アルピン・エイリー・アメリカン・ダンスシアター 中野サンブラザ	特活 芸術鑑賞
1992.4.15	高校	音楽	ヴァイオリン演奏会 黒沼ユリ子(中9)	特活
1992.6.5	中学	歌舞伎	「青砥稿花紅彩画ー白波五人男ー」 坂東八十助他 国立劇場	特活 芸術鑑賞
1993.4.30	中学	音楽	マリimba演奏会 安倍圭子(高8) ポーロウニア・パーカッショングループ	特活 芸術鑑賞
1993.5.28	中学	民族芸能	「三国志 美女連環陣の巻」 中国安徽省徽劇団 国立劇場	特活 芸術鑑賞
1993.7.14	高校	音楽	ロシア少年少女合唱団コンサート	芸術鑑賞
1994.5.6	中学	朗読	詩の朗読とピアノの即興演奏 星野和正とその仲間たち	特活 芸術鑑賞
1994.6.1	中学	狂言	「柿山伏」「六地藏」 和泉流	特活
1994.10.6	中/高	音楽	レーナ・マリア・ヨハンソンコンサート	特活 芸術鑑賞/修養会
1995.6.22	中・高	朗読劇	「この子たちの夏」 地人会 世田谷区民会館	国語・芸術鑑賞
1995.11.10	高校	音楽	ヤドランカ・スタコビッチ独唱会	平和教育
1995.11.24	中学	映画	「伽椰子のために」 小栗康平(映画監督)講演	特活 芸術鑑賞
1996.5.17	中学	音楽	ヴァイオリンコンサート 古澤巖	特活 芸術鑑賞
1996.6.7	中学	歌舞伎	「魚屋宗五郎」(新皿屋鋪月雨暈) 国立劇場	芸術鑑賞
1996.11.29	高校	音楽	新ヴィバルディ合奏団演奏会	芸術鑑賞
1997.5.7	中学	糸あやつりと写真絵	「アリスどんどんお家が遠くなる」 結城座	特活 芸術鑑賞
1997.12.5	高校	音楽	プラハ少年少女合唱団コンサート	芸術鑑賞
1998.5.8	中学	狂言	「附子」「梟山伏」 和泉流	特活 芸術鑑賞
1998.11.20	高校	音楽	ハンドベル演奏会 チェンバーリング・ソロイスト	芸術鑑賞
1999.2.19	中学	音楽	カウンター・テナーリサイタル 米良美一	特活 芸術鑑賞
1999.11.19	高校	音楽	ミラクル・パーカッション・アンサンブル演奏会	芸術鑑賞
2000.2.25	中学	音楽	ミラクル・パーカッション・アンサンブル演奏会	特活 芸術鑑賞
2001.2.23	1-5年	音楽	オーケストラ・シンボシオン(19世紀ヨーロッパ古楽器による)	芸術鑑賞
2002.2.22	1-5年	伝統芸能	「お江戸でこんにちは」 日本伝統芸能を守る会	芸術鑑賞
2003.2.7	1-5年	民族音楽	ロス・ラティーノス&ママドゥコンサート	芸術鑑賞
2004.1.16	1-5年	バレエ	「白鳥の湖」 東京バレエ団 東京文化会館	芸術鑑賞
2005.2.9	1-5年	音楽	スロヴァキア室内オーケストラ&安足さつき(ソプラノ)演奏会	芸術鑑賞
2005.9.9	1-6年	音楽	スカラ室内管弦楽団演奏会	芸術鑑賞
2006.9.30	1-6年	民族芸能	「三盆口」「拾玉金蜀」「盗屋銀」 雲南省京劇院 バルテノン多摩	芸術鑑賞
2008.2.6	1-5年	音楽	チェロ・ピアノデュオリサイタル P・ウィスベルウェイ A・メルニコフ	芸術鑑賞
2009.2.19	1-5年	伝統芸能	学校寄席 三遊亭小遊三 柳家喬太郎 林家正楽 三増紋之助	芸術鑑賞
2009.6.5	1-6年	音楽	日本フィルハーモニー交響楽団特別演奏会 府中の森芸術劇場	芸術鑑賞 創立80周年記念
2011.2.16	1-5年	音楽	Orchestra meets JAZZ TRIO 東フィル弦楽オーケストラ権名豊ジャズトリオ	芸術鑑賞
2011.11.22	1-5年	演劇	「キュリー×キュリー」 青年劇場	芸術鑑賞
2013.3.12	1-5年	民族芸能	Korean performing arts「鼓舞」 J P スタジオ	芸術鑑賞
2014.2.5	1-5年	伝統芸能	学校寄席 一龍斎貞友 林家たい平 三増紋之助 柳家さん喬	芸術鑑賞
2014.6.2	1-5年	音楽	日本フィルハーモニー交響楽団演奏会	芸術鑑賞

参考：授業日誌(資料番号C3-1)『恵泉女学園五十年の歩み』『汝の光を輝かせ』『恵泉』1-505号 高等学校日程表(受入番号4367)

特別教育活動(受入番号2149) 職員会議録 中学・高等学校芸術鑑賞の歩み 須藤章学園記録写真アルバム 中学校行事記念写真アルバム

昭和十年以降庶務日誌(資料番号B3-25) 当直日誌,日直日誌(資料番号C1-8)

第12回 河井道勉強会

日時：2015年7月10日（金）

場所：世田谷キャンパス大会議室

主題：昭和天皇免責問題を再考する

講師：吉田裕（一橋大学大学院教授）

参加者：松下俱子学園長、一色義子

学園特別顧問、中学・高校・大学現教職員、
旧教職員、同窓生、史料室等 計25名

2013年7月、映画「終戦のエンペラー」が公開された。内容はフィクションによるヒストリカルドラマであったが、原作である、岡本嗣郎『終戦のエンペラー』（集英社文庫、2002年、原題『陛下をお救いなさいまし 河井道とボナ・フェラーズ』）は映画をきっかけに文庫化され、重版されている。ここでは天皇免責に関与した人物として河井道が挙げられているが、同書が出版された2002年に比べて昭和史研究が進んだ現在、改めて天皇免責問題を考える勉強会を行った。吉田裕先生は一橋大学大学院社会学研究科の教授として、日本近現代政治史・軍事史を専門に研究されている。著作には『昭和天皇の終戦史』『アジア・太平洋戦争』『現代歴史学と軍事史研究』『兵士たちの戦後史』等が多数ある。

吉田先生の下には、NHKが「NHKスペシャル『昭和天皇二つの独白録』（1997年放送）を作成した際に集めたフェラーズ資料があり、史料室は2003年にそのフェラーズ資料をコピーさせて頂いた。現在進めている所蔵資料の目録化においても、河井道への手紙などを含むフェラーズ資料を収録する予定である。

講演要旨：〈はじめに〉

日本の戦後処理の中で天皇の責任問題が顕在化しなかった原因の一つは、全ての責任を軍部に押し付けた上で天皇と国民との間に戦争責任の問題を互いに不問に付すという

暗黙の了解があったことである。しかし、1989年1月の昭和天皇の死去は「菊タブー」に大きな動揺・後退をもたらした。一方、天皇の死去によって活発化した戦争責任をめぐる議論の中で、国民の戦争協力の問題がきちんと位置付けられることはなかった。

小熊英二・上野陽子『〈癒し〉のナショナリズム』（慶應大学出版会、2003年）では、南京大虐殺や慰安婦など昨今争点化されている問題は、『『民衆の戦争責任』の文脈で浮上したものが多い』と指摘している。1990年代以降、歴史修正主義者との論争に引きずられる形で、この「民衆の戦争協力の問題をどう考えるべきか」という本質的な議論が置き去りにされ、棚上げされてきたのではないかと指摘している。

1. 公文書の焼却・隠匿をめぐる

◆軍や政府関係の公文書の徹底的焼却が行われ、宮内省でも侍従武官府保管の上奏書類の焼却が判明しており、天皇の戦争責任に結びつく証拠である公文書は失われている。

◆戦後15年間にわたって服部卓四郎らによる大本営政府連絡会議・御前会議記録などの隠匿が行われ、大元帥である天皇の命令を伝達する陸軍の大陸命、これに基づく参謀総長の指示による大陸指、海軍における天皇の命令を伝達する大海令も隠匿された。近頃『昭和天皇実録』（東京書籍、2015年）が出版されたが、編者による書下し文であり原典ではないため、資料批判ができないという致命的な欠陥がある。

2. 占領期の問題

(1)前史としてのアジア・太平洋戦争期の対日心理作戦の重要性

◆天皇・国民と軍部の間にくさびを打ち込む「くさび政策」（ジョン・ダワー）が既に採用されていた。マッカーサー率いる南西太平洋方面軍は戦争早期終結のため、対日心理作戦を実施し、「戦況の真実は伝え、軍国主義者は批判」するが、「天皇を犠牲者として描く」方針をとった。

◆南西太平洋方面軍司令部で対日心理作戦に従事したフェ

河井先生をめぐる人々 (21)

鈴木香代 (1910.12～2001.12)



鈴木香代先生は信州のお生まれです。家がキリスト教のため通学途中の峠で「ヤソ」と石を投げられることもあったそうです。河井道先生とも親交のあった大江スミ先生創立の東京家政学院に進学なさり、この頃高倉徳太郎牧師の聖書研究会で学ばれました。このような体験のすべてが、先生の生き方の土台になったと思います。

アジア・太平洋戦争の敗戦後間もなく私が恵泉に勤め始めた時には、鈴木先生は旧制の高等部家事科の教師をしておられました。毎週の会議でお会いしましたが、いつも率直に自由な発想で発言なさるので「自立した方」との印象を持ちました。のちに先生は高校主事になら

れ、私も所属が中学から高校に移りました。

七十年安保の時には、その余波で生徒の間に礼拝参加を自由に、との声があがりました。学園長の清水二郎先生が生徒との話し合いを粘り強く続けられる中、鈴木先生は「先生方は授業でしっかり生徒を捉えてください」とおっしゃり、教師一人ひとりの自覚ある行動を促されました。その結果、礼拝の全員参加は守られました。ある年の卒業感謝会で先生は「みなさんは間もなく選挙権を持ちます。その時はよく考え判断し、必ず投票するように」と言われました。女性に選挙権がなかった時代を生きられた先生からの重いメッセージを改めて考えています。（元中学・高等学校校長 風間文子）

*鈴木香代略歴 1939～1940年 第一寮舎監／1945年4月 高等部 家事科講師／1947年4月 高等部 家事科専任／1949年4月 高等学校 専任（家庭科）／1953年2月～1976年3月 高等学校 主事／1976年3月 退職／理事1953年2月～1988年3月 鈴木有郷元恵泉女学園大学教授はご子息。（参考：『恵泉女学園五十年の歩み』『恵泉』学校法人恵泉女学園名簿）

ラーズなどの幕僚グループが、占領軍最初期のマッカーサーの最も身近な側近グループとなった。このため天皇免責は対日心理作戦の延長とも考えられる。

(2) 連合国司令部提供「太平洋戦争史」をめぐるいくつかの問題

◆1945年12月8～17日、全国紙に連合軍司令部提供「太平洋戦争史—真実なき軍国日本の崩壊」が連載された。ここで天皇は「戦争を批判した平和主義者」と捉えられ、免責方針が明確にされている。この時期、GHQも米政府もまだ天皇不訴追を決めておらず、明白にフライングである。

◆「太平洋戦争史」は太平洋方面軍を中心に描いており、マッカーサーの南西太平洋方面軍の戦闘を軽視している。

(田中宏巳『消されたマッカーサーの戦い』吉川弘文館、2014年) 当時、GHQの内部はかなり混乱していた印象を受ける。天皇免責をマッカーサーおよびフェラーズと天皇だけの関係で捉え、フェラーズの役割を過大に評価するのは疑問である。また米国内の「親日派」は各資料によると、かなりクールに昭和天皇個人と天皇制を見ている。

(3) 東京裁判における天皇不訴追問題

◆1946年3月6日のフェラーズ・米内光政会談(東京裁判で東条英機が開戦の責任を引き受ける発言をするように進言)や『独白録』で明らかのように、東京裁判における天皇不訴追は水面下における日米合作の結果である。

◆同時に、証拠となる公文書の不在(焼却・隠匿による)が日本側に有利に働いた。特に内容や開催日時が秘密にされた御前会議が問題である。いつの御前会議で日米開戦が決定されたかは、開戦の責任問題に大きく関わる。

(4) アメリカ以外の連合国の存在を視野に入れるべき

◆戦後日本の労働政策にイギリス政府などが果たした大きな役割に注目したい。(中北浩爾『日本労働政治の国際関係』岩波書店、2008年)

◆オーストラリアが対日戦でアメリカに代わって果たした役割、占領期において農地改革や日本国憲法での国務大臣の文民規定・アンザス条約で果たした役割を再検討すべきである。(田中宏巳『マッカーサーと戦った日本軍』ゆまに書房、2009年)

3. 広義の責任問題、東京裁判後も依然として

根強い退位論の存在

◆戦後少なくとも四回、昭和天皇の生前譲位の可能性があった。この退位問題は戦争責任に端を発しており、実現すれば国民の戦争協力の問題が浮上した可能性がある。

◆研究者には既知の「謝罪詔勅」草稿が発見された。(加藤恭子『昭和天皇「謝罪詔勅草稿」の発見』文芸春秋、2003年) この中で「謝罪詔勅」は「東京裁判判決時」に出そうとしたものだとしてされているが、1952年の「講和条約発効時」に公表が検討されていたと考えた方がいいのではないか。しかし、天皇の謝罪は最終的には実現しなかった。

◆戦後も天皇は国と国との関係では元首とみなされてきた。このため皇室外交では戦争責任問題という火種を常に抱えていた。訪欧・訪米および全斗煥大統領やベアトリクス女王来日時の「お言葉」には戦争に言及した部分がある。

(おわりに)

1990年代から南京大虐殺や慰安婦など、外部の目から見た戦争責任問題が議論される一方で、国民の戦争協力を問う声は途絶えていった。戦後70年を経て、戦争体験を語る世代は急速に数を減らしており、日本人として体験を継承していくために何をすべきか、ここに大きな問題がある。

質疑応答から

*免責は複雑さの絡み合いによるものである。個人の中にも戦争を呪う気持ちと、家族のために戦うという意志がある。複雑さを単純化せずにどう再現するかが課題である。

*戦時中も情報が完全に遮断されていたわけではなかった。しかし、指導者と国民を同じレベルで論じることはできないので国民の「戦争協力」という言葉をあてている。

*ゲームになった「アジア・太平洋戦争」しか知らない世代に現実の戦争をどのようにして教えたら届くのか。戦後生まれにも「戦後処理」の当事者意識を育てていきたい。

(森 恵)

恵泉あれこれ

おおぞら
穹



フェロシップホール前の日当たりのよい廊下に、両手を天に伸ばし、胸を張り足をしっかり大地につけた裸婦像がある。これは学園創立32周年の際に、普通部1、2回卒業生から学園へ贈られた本郷新の「穹」(1959年作)である。本郷は学園創立当時から美術工芸を担当し、その後「わだつみのこえ」をはじめ数々の作品が日本各地に設置されるなど、日本の彫刻界を牽引した人物である。

「穹」は学園長室等で保管された後、2003年度高校57回卒業記念品として新しく台座が贈られ、教職員や生徒、来訪者の目にもふれる現在の場所に飾られた。本郷は「穹」について「恵泉」210号で「この像は自分の好きな青空、ピーンと弓のように張りきった蒼穹にむかった心を表現した」と語ったとある。「穹」は伸びやかにまっすぐ歩む過去・現在・未来の恵泉を見つめているようである。

※1950年代後半から1960年頃にかけて本郷新は「穹」または「蒼穹」という像をいくつも制作している。(大町麻衣)

運営委員長：松下俱子 室長：小関毅彦
運営委員：梅澤ふみ子 川戸れい子 服部伸江
松井弘子 森 恵
室 員：安藤和子 大町麻衣

恵泉女学園史料室
〒156-0055 東京都世田谷区船橋5-8-1
TEL・FAX 03-3303-6920 (直通)
メールアドレス ksshiryu@keisen.ac.jp